

「上都賀學館記念碑」移設趣意書

謹啓

同窓会会員並びにPTA会員の皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、創立百十周年を迎える栃木県立鹿沼商工高等学校には、その校史以前に「私立上都賀學館」の創立と廃止の歴史がありました。その経緯は本校の前身である「栃木県立鹿沼農商高等学校」創立六十年誌に詳しく述べられていますが、そこには《明治三十年代の上都賀郡内には中等教育（現在の高校）の場がなく、義務教育を卒業しても宇都宮中学や栃木中学に進むしかなく、それも交通手段の少ない時代では下宿するほかない。したがって中等教育を受けることができるものは一部の有産階級の者に限られ、大部分は希望をもちつつ空しく埋もれてしまう状況であった》と書かれています。

この状況を憂いた東大芦村の有力者高山角造氏は、明治三十六年に私財を投入して私学を創立し、貧しくても勉強したいと願う子弟にその機会をいち早く提供しました。それが「私立上都賀學館」でした。その卒業生の中からは、名古屋医大教授となった鯉沼氏や、齒科医師となった新嶋氏をはじめ、多くの人材を輩出し、地域にとどまらずとも郷土の中心人物となって活躍したと言います。

しかし「私立上都賀學館」は六年にして潰え、明治四十二年には「郡立農林学校」に引き継がれました。この事蹟は歴史の中で一瞬の光芒を放ったのみと見えますがそうではありません。辺地にあっても、貧しくても、教育を受ける機会均等ではないとしないとする精神と、それを実現するためには私財を擲っても悔いることはないとする高山角造氏の「志」がしっかりと貫かれており、教育に携わる者のみならず、後世の人びとに伝えなければならぬ歴史的事実なのであります。

高山角造氏の「志」は当時の卒業生たちによく理解され、昭和六年には時の文部大臣篆刻による（上都賀學館この地にあり）とする石碑が西鹿沼町に建立されました。いわゆる「上都賀學館記念碑」であります。碑文には高山氏の「志」が記されていて貴重です。しかし記念碑の建立された土地は長年の宅地造成により、記念碑そのものが倒壊の危機に瀕しており、善処が求められております。

本校同窓会はこの事態を憂慮し、当事者、関係者と協議を重ねた結果、記念碑は歴史的遺物の取り扱いを遵守しつつ鹿沼商工高校の校庭に移転し、その建学の「志」を広く世に伝えることが最善の道であるとの結論に至りました。

よってここに「上都賀學館記念碑」移設実行委員会を組織し、その実現に取り組むものであります。碑は本校に移されますので、生徒の皆様をはじめ、多くの方々に当時の気風に触れて頂き、先達の「志」をわが「こころざし」として後世につなぎ伝えてゆく、その一翼を担って頂きたいと希望するものであります。

移転事業推進に当たり、別紙の通りご協力を賜りたく、趣意書を添えてお願い申し上げます。

謹白

令和元年十一月吉日

栃木県立鹿沼商工高等学校同窓会会長

中村 國司

上都賀學館記念碑移設実行委員会会長

福井 辰次

栃木県立鹿沼商工高等学校校長

山野井 義和